

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

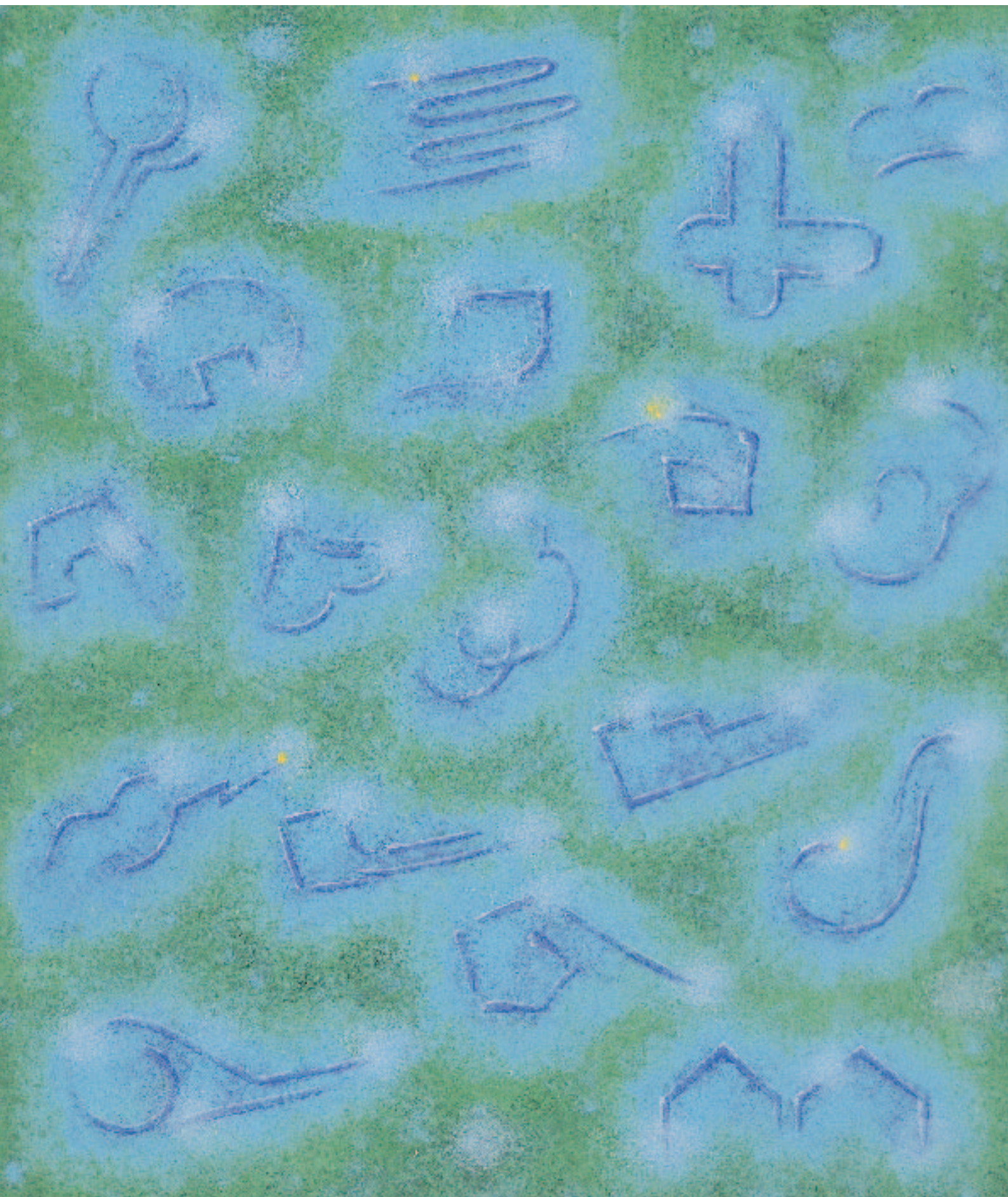
1996. 12. 26

ウェーブ三重大

9号



三重大学広報委員会



表紙タイトル 『 記号Ⅱ 』



表紙デザイナープロフィール

宮田 修平

教育学部教授（芸術学士）

1933年生

Profile of cover designer

Syuhei MIYATA

Professor, Faculty of Education

(Bachelor of Arts)

Born in 1933

Photo: Tsutomu NAKAMURA

目次

Contents

| | |
|--|---|
| 1. 留学生——日本人交流プロジェクト“台風にも負けない国際交流” International Exchanges between Foreign Students and Japanese Students at Mie University | 児玉克哉1 Katsuya KODAMA |
| 2. 第3回法医病理夏期セミナー ——第3回国際法医学シンポジウムジョイントミーティング—— The Third Summer Seminar of the Japanese Association of Forensic Pathology ——Joint Meeting of the Third International Symposium Advances in Legal Medicine—— | 福永龍繁3 Tatsushige FUKUNAGA |
| 3. 第26回日本腎臓学会西部学術大会 The 26th Annual Meeting of the Western Section of Japanese Society of Nephrology | 川村寿一5 Juichi KAWAMURA |
| 4. 日本機械学会 M&M'96材料力学部門講演会 M&M '96 Annual Meeting of Strength of Materials Division (Organized by Japan Society of Mechanical Engineers) | 徳田正孝7 Masataka TOKUDA |
| 5. 第2回中間体の化学に関する三重国際ワークショップ 2nd Mie International Workshop on Reactive Intermediates (MIWRI—II) | 富岡秀雄9 Hideo TOMIOKA |
| 6. 三重大学の外国人研究者 Reports by Overseas Researchers at Mie University | セルジオ・タバレス・フランサ11 SERGIO TAVARES FRANCA |
| 7. 三重大学概要12 Outline of Mie University | |

英文は日本語の要約です。

The English is a condensed version of the Japanese.

留学生—日本人交流プロジェクト “台風にも負けない国際交流” International Exchanges between Foreign Students and Japanese Students at Mie University

朝起きてみると雨が降っていた。台風21号が接近しているという。せっかくの留学生と日本人学生の交流旅行の日というのに、なんと気ままな秋の空か。一体、参加者がいるのかどうか心配しながら、集合場所の正門前に来てみると、どしゃぶりの雨の中、留学生と日本人学生がバスの来るのを待っている。なんと嬉しいことか！雨にも、台風にも負けない国際交流への意欲がひしと感じられた。

9月30日、合計29人の留学生、日本人学生、教官は、なごやかな雰囲気観光バスに乗り込んで、伊賀上野へと向かった。三重大学国際交流基金の援助で、留学生と日本人学生との交流と、三重県への理解を深めることを目標に、伊賀上野旅行は実施された。

まずは、名張市にあるソーシャルセンターを訪れて、三重大学でドイツ語を担当されているイレネ・ビュフリー先生の手作りのドイツケーキをいただきながら、しばし歓談の時間が取れた。参加者の多くはそれまでお互いに面識がなく、話のきっかけをつかむのが難しかったが、美味しいドイツケーキは交流のための絶好の潤滑油となった。

そこからは、上野にあるモクモクファームに向かった。手作りのハムと地ビールに、参加者誰もがとって満足！ドイツやオーストラリアのビールと比べたり、お互いの国の食文化について話が弾んで、美味しいだけではなく、たいへん面白かった。鳩、蛙、犬、猫、蛇、鼠などなど、様々な食材に話が及んで、留学生との交流会ならではの充実した一時であった。

モクモクの地ビールにほろ酔い加減のままに、観光バスにゆられ、上野の忍者屋敷、上野城に到着した。忍者屋敷では様々な仕掛けに、参加者一同大いに感心。壁がぐるりと回ったり、柵が梯子（はしご）に変身したりで、なかなか面白い。忍者の使っていた道具などが展示されている資料館では、留学生は真剣に見入っていた。道具がどのように使われていたのか、忍者のルーツは何なのか、など質

A trip to Iga-Ueno district was organized on September 30 so as to promote international exchanges between foreign students and Japanese students at Mie University.



モクモクファームにて
At Moku Moku farm

sity. In total, 29 persons (approximately half Japanese, half foreigners) participated in the trip. Although it was a rainy day, the participants had a wonderful time and made many friends.

The first place to visit was the Social Center in Nabari where the participants were offered delicious ger-



上野城公園にて
At Ueno Castle Park

問も飛び出してきて、彼等の興味の高さがうかがい知れた。ちなみに参加していた日本人学生のほとんどにとっても、初めての訪問であり、三重県の文化・歴史を知るという観点からも、留学生のみならず、日本人学生にも良い機会であったようだ。

次に、隣接の上野城に徒歩で向かった。津城と同様、藤堂高虎の築いた城である上野城はなかなか立派な容姿を持っている。あいにくの雨で見晴らしは良いとは言えなかったが、それでも階段を登って城に上がってみた気分はとっても良かったようだ。日頃の運動不足が解消できたとは、ある留学生の一言。ちょうど、面の展示会もなされており、鬼などの異様な独特の雰囲気を持つ面に見入る参加者の姿も見受けられた。「あんまり見るとトイレに一人で行けなくなるよ」と適切なアドバイスをしておいた。

旅の最後の仕上げは、上柘植のガラスミュージアムであった。これは予定にはなかったが、雨のための日程の変更から急遽可能になったものだ。なかなか美しいガラス細工の品々が展示されており、値段も手頃であった。こうしたガラス文化が三重県にあったのか、と新鮮な驚きを楽しむことができた。友人や恋人にプレゼントを買ったり、家族にお土産を買ったりして、留学生と日本人学生との交流の旅は無事日程を終えた。

観光バスで一日中旅をすることによって、参加者はみんな親しくなれた。面識のない人にはなかなか話かけることはできないものだが、こうした旅行などをすると簡単に交流のきっかけを掴むことができる。留学生と日本人学生が一緒になって、三重県の文化を学び、そこから友情の輪を広げるといふ今回の試みは、台風にも負けず、大成功であった。雨のため、参加者が少し減ったのは残念であったが、とにもかくにも、最初の試みとして大きな成果があった。またこうしたイベントができることを願っている。



伊賀ガラスミュージアム
Iga Glass Amusement Land

man cake made by Mrs. Irene Uchida, a teacher in German language at Mie University. The group then visited the Moku-Moku firm in Ueno, where special ham and beer were enjoyed. Then, we visited Ninja House and Ueno Castle in Ueno. This was a very important occasion to know the cultural aspects of Mie prefecture.

Despite the rain, the trip produces a big success. I do hope that such events will be carried out again in future so as to strengthen the friendship between Japanese and foreign students at Mie University.



筆者プロフィール

児玉 克哉

人文学部助教授（社会学博士）

1959年生

Profile

Katsuya KODAMA

Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

(Doctor of Sociology)

Born in 1959

第3回法医病理夏期セミナー

——第3回国際法医学シンポジウムジョイントミーティング——

The Third Summer Seminar of the Japanese Association of Forensic Pathology

——Joint Meeting of the Third International Symposium Advances in Legal Medicine——

去る9月3日、4日の2日間、第3回法医病理夏期セミナーが、大阪豊中の千里ライフサイエンスセンターにおいて第3回国際法医学シンポジウムのジョイントミーティングとして開催されました。法医病理研究会は、日本法医学会の会員の中で特に法医病理学を専攻する若手研究者の勉強会として1993年に設立され、春には日本法医学会のサテライトミーティングとして勉強会を、夏休み中に実習を兼ねた夏期セミナーを開催しています。本年は、8月中旬から9月初旬にかけて日本で開催された4つの国際会議のうち、その最後に当たる国際法医学シンポジウムに合わせて本夏期セミナーを、三重大学が代表世話人として開催する運びとなりました。したがって、例年のように実習を行うことができませんが、教育講演を入れ若手の研究者の活発な討議を期待しての開催となりました。

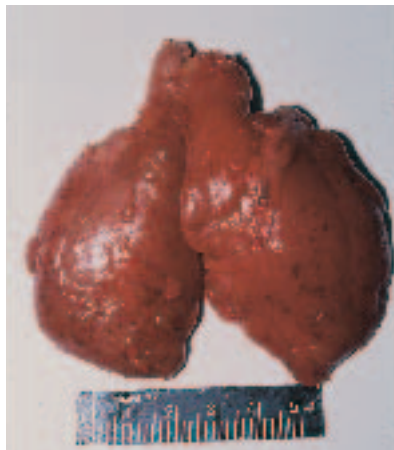
日本法医学会の会員は約800名、そのうちの200名が法医病理研究会の会員として登録し、今回の夏期セミナーには約110名が参加しました。今回のテーマは「胸腺と副腎」であり、日常の解剖の中でも最も複雑で、所見が読めているようで読みづらい臓器を挙げました。胸腺は、出生時10～12gのリンパ系臓器で成長とともに約30g前後になりますが、思春期を迎える頃から脂肪織に置き換わり生理的退縮を始めます。免疫に重要な役割を果たすTリンパ球の分化の場でもあり、内分泌機能、神経系の影響、なかんずくストレスの影響を大きく受けることは周知であります。しかし、法医学でよく遭遇する突然死例には、胸腺が異常に肥大した例や成人になっても退縮せず実質のまま残存する例もあり、古くは「胸腺リンパ体質」という言葉も生まれましたが、いまだに解決されない問題を残す臓器です。また、副腎も片方3～5gの小さな臓器ですが、ステロイドホルモンやカテコールアミンの分泌を担当し、生命に重要な役割を担う、しかも胸腺とは関係の密な内分泌臓器であると言えます。

そこで今回は第1日目に、長崎市立市民病院病理部長 河合紀生子先生「副腎皮質の病理——非腫瘍性病変を中心にし

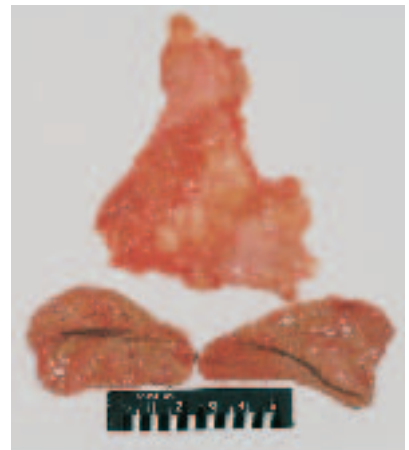


法医病理研究会シンボルマーク
The symbol of the Japanese Association of Forensic Pathology

The third Summer Seminar of the Japanese Association of Forensic Pathology was held on September 3rd-4th, 1996 at the Senri Life Science Center in Toyonaka City, Osaka. This seminar was held as a joint meeting to the third International Symposium Advances in Legal Medicine held in the same place. The seminar is held annually as a discussion platform for young forensic pathologists to discuss enthusiastically unsolved problems on usual autopsies. The special theme of the seminar was "thymus and adrenal gland". These organs were chosen to be some of the most difficult ones in diagnosing the pathological changes in ordinary autopsies. Approximately 110 scientists participated in the seminar. The scientific program comprised three didactic lec-



突然死例の肥大した胸腺
Hypertrophic thymus in sudden death



退縮した胸腺(上段)、副腎(下段)
Involved thymus induced by stress (upper), Adrenal gland

て」、浜松医科大学解剖学第2講座教授 山下 昭先生「胸腺の形態と機能」、そして名古屋市立大学名誉教授 正岡 昭先生「胸腺の臨床と病理」の3題を教育講演として挙げ、それぞれの専門の立場より、解剖学的基礎から病態、最新のトピックスまで幅広く講演願いました。

第2日目には、3講師陣を交え、一般演題5題と指定発言1題について活発に議論がなされました。従来の学会と違い、講演時間よりも質疑応答の時間を充分に取り、会員が率直に疑問を投げかけ、活発に議論するところに本会の特徴があります。講演と質疑応答の内容はすべて「法医病理」第3巻に掲載されます。

法医学領域の研究は、法医病理学の他に、血液型やDNA多型を用いた個人識別、薬毒物分析や毒性について研究する法医中毒学、医事法学など多岐にわたります。しかし、法医解剖に携わるものにとって法医病理学に関する知識・教養は必須であり、今回のテーマである「胸腺と副腎」のみならず、未解決な問題が多く残されています。

法医病理研究会のシンボルマークは、図に示すMinerva（ミネルバ）のフクロウです。Minervaはローマ神話に登場する女神で、知恵、技術、教育などを司り、フクロウはその使者とされます。フクロウのくわえた天秤は公正な判断を意味し、円弧内下部に記されたMORTUI VIVOS DOCENTはラテン語で「死から生を見る」と解釈され、当研究会に期待されるものです。また、小さな6枚の葉は、法医病理学者に求められる6つの重要事項、observation、examination、judgementとこれらを修飾するaccuracy、justice、qualityを示します。即ち、「現実を直視し、未来を正しく予見する」ことこそ当研究会の理念といえます。本研究会を通し、次代を担う法医学者が学術的に議論することを学び、育つことが期待されています。

最後になりましたが、本夏期セミナーの開催にご協力いただきました学内外の皆様にお礼申し上げます。



教育講演者を交えての討論の様、左：正岡 昭 名古屋市大名誉教授、右：河合紀生子博士

Discussion time with the didactic lecturers, Prof. Emer. Masaoka (on the left), and Dr. Kawai (on the right)

tures and 5 general oral presentations. One of the characteristics of the seminar is that there was more time for discussion than for presentations and lectures. During the discussion, young participants asked many kinds of questions frankly, and actively talked to one another.

We do hope more and more young forensic pathologists to learn how to discuss academically and grow for the next generation.

Lastly, I would like to extend my gratitude to all the people who helped us successfully carry out the seminar.



筆者プロフィール

福永 龍繁

医学部教授（医学博士）

1956年生

Profile

Tatsushige FUKUNAGA

Professor, Faculty of Medicine

(Doctor of Medicine)

Born in 1956

第26回日本腎臓学会西部学術大会

The 26th Annual Meeting of the Western Section of Japanese Society of Nephrology

第26回日本腎臓学会西部学術大会（三重大学医学部泌尿器科 川村寿一教授、会長）が1996年9月20日、21日の両日、四日市市文化会館で開催された。この西部（静岡県を除く東海、北陸、近畿、中国、四国、九州の各地区で構成）の学術大会が東海地区で開かれるのは初めてのことである。参加者は延べ800名で、各種腎疾患、腎機能や水電解質代謝異常に関心を持つ内科、小児科、泌尿器科などの臨床分野あるいは病理、生理、薬理学などの基礎医学分野からの医学者であった(写真1)。一般演題として234題が寄せられ、6会場に分かれてテーマ毎に発表と熱心な討論がみられた。特別企画として、1つの招請講演、5つの教育講演、2つのシンポジウム、2つのワークショップ、そして、大会長講演がなされた。

招請講演は「尿中剥離細胞と尿路悪性腫瘍」と題して吉田修 京都大学教授がされた。加齢と共に増加する尿路悪性腫瘍の発見に分子生物学的手法を使った尿細胞診の有用性と、将来、検尿スクリーニングとしての可能性が述べられた(写真2)。会長講演としては、この10年間の Tc-99m-DMSA 腎シンチグラフィ2400例の経験を述べ、多少なりとも泌尿器科的腎疾患に偏ってはいるが、代表的な4疾患について病態生理と腎シンチグラフィの適応について報告した。教育講演としては、会員からの希望が多かった、話題性に富んだ次の5題を選んだ。i) ANCA 関連腎炎、ii) 尿管機能の分子生物学的解析、iii) ケモカインと腎疾患、iv) 多発性嚢胞腎の分子生物学、v) ESWL 尿路結石治療、その後。

シンポジウムのひとつは「糸球体障害の進展機序とその対策」というテーマで討論され、腎臓病学における永遠のテーマでもある糸球体腎炎の病態と治療に少し



第1会場の受付風景(写真1)
The scenery of the reception desk in the main hall

The 26th annual meeting of the Western Section of Japanese Society of Nephrology (JSN) was held in Yokkaichi City under presidency of Prof. Juichi Kawamura (Department of Urology, Faculty of Medicine, Mie University) from September 20 to 21, 1996. There were about 800 participants in the meeting, who belong to clinical medicines (internal medicine, pediatrics, urology) and basic medical sciences (pathology, physiology, pharmacology). Two hundreds and thirty four papers were orally presented in the different six rooms. Prof. Osamu Yoshida gave us an invited lecture entitled "Urinary exfoliative cells and urogenital malignancy" and Prof. J. Kawamura made a presidential address entitled "A 10-year experience of Tc-99m-DMSA renal scintigraphy".

As an educational lecture, five topical themes were selected as follows : 1) ANCA-related nephritis, 2) molecular and biological analysis of tubular function, 3) chemocaine and renal diseases, 4) molecular biology in polycystic kidney disease, 5) Recent trends of ESWL treatment in urolithiasis.

In one of the two symposiums, progressive mechanism of glomerular



吉田 修教授(京大泌尿器科)による招請講演「尿中剥離細胞と尿路悪性腫瘍」(写真2)
Prof. O. Yoshida, as an invited speaker, gave us a lecture on urinary exfoliative cells and urogenital malignancy.

でもせまっていた。もうひとつは「腎移植医療の今」と題して、一般市民の参加を求めた公開シンポジウムの形式で行われた。1995年4月より全国5ブロックからなる移植ネットワーク構想のもとで死体移植が推進されているが、本学会の属する3ブロック（東海北陸、関西、西日本）からの現状と移植のもつ社会的倫理的側面を重視した移植医療の問題点が討論された（写真3）。会場からも熱心な発言や質問があった。結論としては献腎数の少ないことに尽きる。ワークショップのひとつはネフローゼ症候群の病態と治療で、ネフローゼのもつ多彩な病態を種々の面から解析し、最適治療につながる方策が論じられた。もうひとつは腎尿路画像診断の進歩で、



シンポジウムⅡ、腎移植医療“今”（写真3）

The scenery of the symposium II entitled "A present status of cadaveric renal transplantation in the Western Section of Japanese Society of Nephrology"



沖吹奏楽団(三重大学OB・OG)による大会記念コンサートの一場面（写真4）
A photograph from the memorial concert by Oki Symphony Orchestra

超音波、CT、MRI、核医学の診断手技別に、明日からの臨床に役立つ最近の知見が発表された。

以上の如き一般演題や特別企画のプログラムは本学会の基調テーマ「21世紀に向けて腎臓病の病態解明と治療の展開」に沿った方向で進められたものと確信している。また、各会場での熱心な発表と討論の疲れを癒していただこうと学会記念コンサートを計画した。三重大学吹奏楽団のOB、OGで構成される沖吹奏楽団（三重大学沖公智 教育学部教授指揮）をお招きして、素晴らしい演奏をきかせていただいた。聴衆の年齢層に合わせた往年の名曲にしばし時を忘れる程であった（写真4）。折しも、台風17号の接近で、秋晴れのもとというわけにはいかなかったが、無事、日程を修了できたことを感謝している。

damage and its treatment were discussed. The theme of the other one was about the present status of cadaveric renal transplantation in the three network systems in the Western Section of JSN. This symposium was open to the public and socioethical problems of the transplantation were discussed.

One of the two workshops dealt with pathogenesis and therapy of nephrotic syndrome and the other one with recent advances in imaging diagnosis of the kidney. In order to refresh all participants, a memorial concert was held and all of us enjoyed the very marvellous and moody music performed by Oki Symphony Orchestra (conducted by Prof. K. Oki, Faculty of Education, Mie University).



筆者プロフィール

川村 寿一

医学部教授（医学博士）

1938年生

Profile

Juichi KAWAMURA

Professor, Faculty of Medicine

(Doctor of Medicine)

Born in 1938

日本機械学会M&M'96材料力学部門講演会

M&M '96 Annual Meeting of Strength of Materials Division

(Organized by Japan Society of Mechanical Engineers)

日本機械学会第74期材料力学部門講演会が、同部門および東海支部の共催により1994年10月3日(木)、4日(金)の

2日間、三重大学工学部(三重県/津市)を会場に開催されました。同講演会は、日本のほとんどの材料力学の専門家が年に一度集う比較的大きな講演会です。最近では、大阪府立大学(93年)、徳島大学(94年)、岩手大学(95年)を会場として開催されてきました。今回も、期待にたがわず、これまで以上に、北海道から

沖縄まで全国から750名(内学生250名)の参加者を得て、材料力学にかかわるあらゆる話題に関し活発な学術的討議、情報交換がなされました。全講演発表が573件、その内訳は、基調講演17件、一般講演59件、オーガナイズド・セッションの講演483件でした。オーガナイズド・セッションは材料力学分野の最新テーマを含む以下のとおりです。

- O. S. 1 最適設計 (8件)
- O. S. 2 材料力学におけるハイパフォーマンスコンピューティング (16件)
- O. S. 3 オブジェクト指向 (4件)
- O. S. 4 分子/原子モデルを用いる材料評価 (9件)
- O. S. 5 バイオメカニクス (19件)
[バイオエンジニアリング部門との合同企画]
- O. S. 6 高温における材料強度と変形 (25件)
- O. S. 7 非弾性挙動のモデリングとその応用 (19件)
- O. S. 8 材料・構造物の衝撃問題とその応用 (22件)
- O. S. 9 不安定現象 (8件)
- O. S. 10 複合材料の設計・解析 (13件)
- O. S. 11 複合材料のメカニクス (24件)
- O. S. 12 複合材料の疲労と破壊 (30件)
- O. S. 13 表面改質材の力学・強度 (17件)
- O. S. 14 材料損傷の評価とモデリング (12件)
- O. S. 15 材料組織と疲労特性 (29件)
- O. S. 16 光計測 (20件)

M&M '96 Annual Meeting was held within the Faculty of Engineering, Mie University, on 3-4, Oct. 96. The

number of participants was 750 (including 250 students), and the number of presentations was 573. The following 25 special sessions were organized according to the recent development of this research field : Optimal Design, High-performance Computing, Object-oriented Design,



会場入り口
The entrance of the meeting



講演風景
The lecture scene

Materials Assessment by Molecular/Atomic Model, Biomechanics, High-temperature Strength, Modeling of Inelastic Behaviors, Materials/Structures Subjected to Impulsive Loads, Instability, Design of Composite Materials, Mechanics of Composite Materials, Fatigue/Fracture of Composite Materials, Mechanics/Strength of Surface-treated Materials, Evaluation and Modeling of Materials Damages, Relation between Materials Structure and Fatigue Properties, Optical Measurements, Manufacturing, Evaluation, and Applications of Functional Materials, Thermal Stress, Materials Properties under Ultimate Environments, Non-destructive Evalu-

- O. S. 17 機能性材料の製造、特性評価および応用 (22件)
- O. S. 18 熱応力 (29件)
- O. S. 19 極限材料物性 (10件)
- O. S. 20 非破壊材料特性評価 (25件)
- O. S. 21 各種セラミックスの力学特性と設計 (18件)
- O. S. 22 環境強度 (環境の関与した材料の特性評価) (19件)
- O. S. 23 微小材料 (24件)
- O. S. 24 異種接合材料の応力解析 (27件)
- O. S. 25 先進材料の特性発現モデル (19件) 今期はこの他に特別企画として、国際ナショナル・セッション (使用言語: 英語) が企画されました。ここでは、基調講演 1 件を含む 14 件の発表が行われました。これは、来日間もない研究者や留学生で日本語によるコミュニケーションが必ずしも自由にならない方々向けの企画で、大変好評を得ました。

特別講演については、鳥羽市にある海の博物館・館長の石原義剛氏に三重大学講堂にてお願いしました。「海民の伝統(三重県の漁村を例として)」と題して、海に関する伝統技術の継承、保存、伊勢湾の環境汚染などいくつかの興味深い話題を迫力ある映像とともに提供いただきました。講堂備え付けの大型のスライドプロジェクターに



懇親会でのスナップ写真
Snap photo at Banquet

で大映像をスクリーンいっぱいに映しだしました。これも大変好評でした。このほかに三重の特産品である真珠、焼物、彫物などの伝統工芸品の展示等も実施して、はじめて三重に来られた方には楽しんでいただきました。

秋たけなわというのに、初日 (3日) に激しい雨にまわられたこと、また、懇親会の多数の参加者 (200 余名) の旺盛な食欲のため料理の追加が追いつかなかったこと程度をのぞいて、大きなトラブルもなく無事終了できました。これも関係各位のご理解ご協力のたまものと考えております。紙面をかりて心よりお礼申し上げます。

ation of Materials Properties, Mechanical Properties of Ceramics, and its Design, Strength of Materials under Special Environment, Micro-materials, Stress Analysis of Joint, Mechanical Properties of Advanced Materials.



特別講演「海民の伝統」石原義剛氏
Special lecture by Mr. Ishihara (The curator of the Sea Museum)



筆者プロフィール

徳田 正孝

工学部教授 (工学博士)

1944年生

Profile

Masataka TOKUDA

Professor, Faculty of Engineering

(Doctor of Engineering)

Born in 1944

第2回中間体の化学に関する三重国際ワークショップ 2nd Mie International Workshop on Reactive Intermediates (MIWRI-II)

標記ワークショップを9月20～22日、本学講堂小ホールで開催した。本ニュースレターで紹介されている他の多くの国際会議とは少し趣が異なり、私達の研究室のみで企画から運営まで全て行った、いわば“手作り”の国際集会であり、昨年に続いて2回目である。

さて、会の主題である“中間体”について少し説明しておこう。化学反応によって原料が生成物に変化する際、必ず途中に“中間状態”が生じる。これを中間体と呼んでいるが、一般には大変高エネルギー状態にあり寿命が短く、単離はおろか観測されることも少ない。従って多くの場合、この中間体はブラックボックスの中に留っていた。しかし、化学反応を正確に理解し設計、利用する上でこの中間体の正体を正確に知ることが不可欠であることは古くから認識されていた。近年レーザーの登場と計算機の発達によって、ブラックボックスの中にも光明がさしこみ、中間体の観測が飛躍的に容易になり、数々の新しい発見がなされている。

このような時期に主本題でワークショップを開催することは大変タイムリーなことと考え企画を思いついた。幸いにも、関連した国際研究集会が九州で開催されることになっていたため、それに参加される人を中心にしてこの分野で活躍している研究者に呼びかけた。その結果アメリカ、ドイツ、オーストラリアなどから多くの人がほとんど手弁当で駆けつけてくれた。

ワークショップは20日がミキサー、21日に講演会と懇親会、22日はエキスカージョンにあてられた。講演会は口頭発表とポスター発表からなり、口頭発表ではこの分野の第一線の研究者によるもので、各演者ともそれぞれが得意とする state-of-the-art な手法を用いた最新の研究成果を発表した。ポスター発表は大学院学生を主体として行われたが、学生諸君にとっては国際的な場での発表のよい体験となったことと思う。



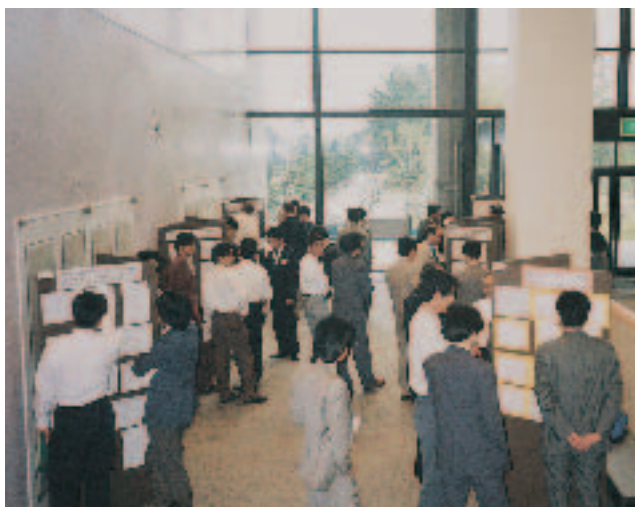
講演会場にて
Oral presentation

The workshop entitled MIWRI was held at the small hall of Mie University's auditorium from Sept. 20th to 22nd. This second international workshop, as well as the first one last year, was planned and managed only by our laboratory staff and it turned out to be a very “home made” one.

Firstly I should explain what “reactive intermediates” means. They are transient species which intervene and play an important role in chemical reactions. Since the species are too short-lived to be observed, they are usually postulated, based on the final product. However, recent rapid advance in technology in this field has shed new light on the nature of these species, and many new

findings are being reported.

In the workshop, there were a mixer on 20th, lectures and a banquet on 21st and an excursion on 22nd. The lectures were presented by leading chemists who are very active at the forefront using the state-of-the-art techniques. Graduate students worked well in the poster session, which must have been a valuable experience for



ポスターセッションにて
Poster session

参加者は全体で40名程度と比較的こじんまりした会であったが、それ故に参加者間の交流、意見交換は大変スムーズに行われた。大規模な学会では味わえない家族的な雰囲気が好評であった。

余談を二、三。スタートが遅く、準備期間が非常に短かったにも関わらず、通信手段の発達により大過なく開催にこぎつけることができた。特にEメールは大変有効で、事務連絡から要旨の送受信に到るまで大活躍であった。

懇親会も同一会場で行ったが、アトラクションとして、卒研生の一人がメンバーという縁で、津市の一般合唱団“ボーカルアンサンブルEST”のメンバーによる男声四重唱に出演をお願いした。この合唱団は東京ボーカルアンサンブルコンテストで優勝した実力の持主で“Trinklied”などを歌って頂いた。会の雰囲気を和らげ、かつ盛り上げ、大変好評であった。

講堂小ホールはこの程度の規模の会合を行うのに大変適していると感じた。会場内の設備はもとより、講堂周辺の環境もすっきりととのいつつあり、学会にふさわしい落ち着いた雰囲気が参加者に大変好感が持たれたようである。一昔前には、このような会を大学内で開催することは思いもなかったことである。

折り悪しく迷走台風が北上を続けた3日間で、天気予報を気にしながらの会ではあった。22日は台風の余波で強風の中、伊勢路で1日を過ごした。案の定、祝日のドライブにはつきものの traffic jam に巻きこまれた。しかし、主催者側の心労をよそに、海外からの参加者には、台風、交通渋滞もまた、日本古来の文化と共に興味深いできごととしてエンジョイして頂いたようであった。

最後に、海外からの参加者の空港へのピックアップから、休憩時間の茶菓のサービスに到るまで、研究室の学生諸君にお手伝い頂いた。彼等の献身的な協力がなければ、本会はかくもスムーズに進行することはなかったであろう。記して感謝したい。



懇親会の1コマ
A snapshot at the banquet

each one of them.

The workshop was relatively a small one, with the attendance of about 40 people. The smallness provided us with a friendly atmosphere and made us feel cozy and relaxed, making it very smooth to exchange our views and opinions.

A typhoon hit Japan during the time of the workshop and we had to worry about the weather throughout the session. On 22nd, we spent a full day in Ise-Shima National Park in the strong wind of the aftermath. Besides, we were caught in a traffic jam, a notorious phenomenon on holiday highways. But both the typhoon and the traffic jam seemed to be interesting aspects in foreigner's eyes alongside Japanese traditional culture.



筆者プロフィール

富岡 秀雄

工学部教授（工学博士）

1941年生

Profile

Hideo TOMIOKA

Professor, Faculty of Engineering

(Doctor of Engineering)

Born in 1941

日本での学習

Pernambuco-Brazil 大学を卒業してから約1年後の1994年10月1日にブラジルから文部省の特別留学生として三重大学にやって来ました。1年半で放射線医学の基礎を習得しようと考えていました。1996年の4月からは中川教授の御厚意により、さらに知識を伸ばすために、研究生とさせていただきます。中川教授の御指導のもと、日頃は単純写真、

CT、超音波、MRI、血管造影といった画像診断を中心に学習しています。多数の症例を経験できるので、非常に有用な日々を送っています。日本に来てから、私は特に消化器系の診断と治療に興味を持ちました。その中でも特に、ブラジルで患者数の多い肝疾患に関心があります。

治療では、血管造影の手技を用いて治療する Interventional Radiology (IVR) に興味があります。1995年2月には、三重大学における経皮経肝的胃食道静脈瘤塞栓術 (PTO) の有用性を検討し、中部IVR研究会で発表いたしました。PTOの長期成績を検討したものです。PTOの施行後も再出血は多いのですが、PTO後、静脈瘤内の血流を落とすことで、初めて内視鏡的に硬化療法が成功した例もみられました。また、長期成績の報告は少ないのですが、最高9年までの観察で良好な長期予後が確認できました。PTOは adjuvant therapy として有用であると考えられました。現在は部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の有用性を検討中です。脾機能亢進症の治療としてPSEが施行されていましたが、近年、PSE後肝機能が改善するとの報告もみられました。脾臓の塞栓範囲と肝機能の変化、血小板数の変化の関連を検討しようと考えています。日本での学習と生活は多くの点で実り多いものです。しかし、最も大事なことは人間としての成長にあると考えています。



三重大学医学部放射線科医局会
Members of the Department of Radiology, Mie University

My Studies in Japan

In October 1994, I came to the Department of Radiology of Mie University School of Medicine, almost one year after graduating at the University of Pernambuco-Brazil. Being guided by the competent hands and minds of the staff in this department, I dare to say that I went through the basis of the radiologic studies. From April, 1996, I became a research student, thanks to Dr. Tsuyoshi Nakagawa.

During this time, I got particularly interested in the diagnosis and therapies of the Gastro-Intestinal System, specially those related to the liver, which are commonly found in my country. Also, I had the chance of doing and presenting my research in this field. Hence, the techniques learned here, by means of great research

effort and experience, will be of inestimable value to me in the future.

Studying and living in Japan has been fruitful in many ways, but the most important fact is the growth as a person.



筆者プロフィール

セルジオ・タバレス・フランサ

三重大学医学部研究生

(ブラジルから留学)

1967年生

Profile

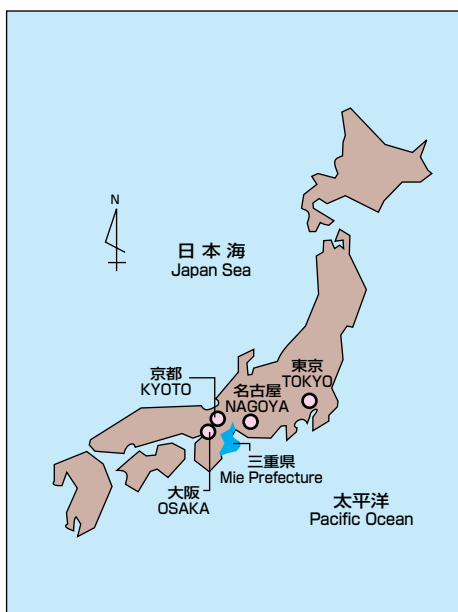
SERGIO TAVARES FRANCA

Mie University School of Medicine

(from Brazil)

Born in 1967

大学概要



- 所在地
〒514 三重県津市上浜町1515 ☎0592-32-1211
- 学部・学科 [入学定員]
人文学部 [295]
文化学科 [95] : 社会科学科 [200]
教育学部 [330]
小学校教員養成課程 [160] : 中学校教員養成課程 [70]
養護学校教員養成課程 [20] : 幼稚園教員養成課程 [20]
情報教育課程 [60]
医学部 [100]
医学科 [100]
工学部 [410]
機械工学科 [105] : 電気電子工学科 [110] : 分子素材工学科 [110]
建築学科 [45] : 情報工学科 [40]
生物資源学部 [306]
生物資源学科 [306]
計 [1,441]
- 研究科 [入学定員]
人文社会科学研究科 [10]
教育学研究科 [37]
医学研究科 [60]
工学研究科博士前期課程 [76]
博士後期課程 [12]
生物資源学研究科博士前期課程 [88]
博士後期課程 [12]
計 [295]
- 専攻科 [入学定員]
特殊教育特別専攻科 [30]
- 別科 [入学定員]
農業別科 [30]
- 医療技術短期大学部 [入学定員]
看護学科 [80]
- 職員 の 定員
1,811人
- 外国人留学生数 (19ヶ国)
224人
- 総土地面積
5,473,489m²

Outline of Mie University

- Location
1515 Kamihama-cho.Tsu-shi.Mie 514.Japan
- Faculties. Departments. Courses [Capacity of Admission]
Faculty of Humanities and Social Sciences [295]
Humanities [95] : Social Sciences [200]
Faculty of Education [330]
Training Course for Primary School Teachers [160] : Training Course for Junior High School Teachers [70] : Training Course for Handicapped Children's School Teachers [20] : Training Course for Kindergarten Teachers [20] : Course for Informative Education [60]
Faculty of medicine [100]
Medicine [100]
Faculty of Engineering [410]
Mechanical Engineering [105] : Electrical and Electronic Engineering [110] : Chemistry for Materials [110] : Architecture [45] : Information Engineering [40]
Faculty of Bioresources [306]
Bioresources [306]
Total [1,441]
- Research Divisions [Capacity of Admission]
Graduate School of Humanities and Social Sciences [10]
Graduate School of Education [37]
Graduate School of Medicine [60]
Graduate School of Engineering Master's Program [76]
Doctor's Program [12]
Graduate School of Bioresources Master's Program [88]
Doctor's Program [12]
Total [295]
- Graduate Course [Capacity of Admission]
Graduate Course of Special Education (Majoring in Education for the Mentally Retarded) [30]
- Special Course [Capacity of Admission]
Special Course of Agriculture [30]
- College of Medical Sciences [Capacity of Admission]
Nursing [80]
- Number of Faculty and Staff
1,811
- Number of Foreign Students (19 Countries)
224
- Total Land Area
5,473,489m² (=1,353acres)



平成8年12月

編集発行

三重大学広報委員会